



写真で振り返る50年

新たな大学病院を目指して

北海道医療大学 医療機関経営管理担当 副学長 山下 徹郎



初めてご挨拶申し上げます。この6月から北海道医療大学医療機関経営管理担当 副学長として着任しました山下徹郎です。生まれは網走、育ちは札幌。北大歯学部1973年卒業後、同口腔外科助手・講師13年、東日本学園大学(現北海道医療大学)口腔外科助教授として、当別の校舎と病院で教育・臨床に2年間従事いたしました。その後、恵佑会札幌病院歯科口腔外科で36年間にわたり、部長、上席副院長、顧問の立場で、病院歯科口腔外科医として、開業されている先生方にも協力し、その支援病院として良質な歯科口腔外科医療を住民の皆様へ届けて、地域医療のために邁進して参りました。また同時に口腔がん治療医として、治療成績とさらなるQOLの向上を目指し、形成外科・放射線科・腫瘍内科との集学的治療に、取り組んで、質の高い成果をあげて来られたと自負しております。

病院経営上も診療科の一員として、しっかりとその役割を果たして参りました。その間北海道医療大学客員教授となり、今回このような責任ある重い立場で戻って参りました。感無量ですが針の筵に座らされている心持ちです。

私にとって臨床を離れることに一抹の寂しさがありましたが、医療機関経営管理担当 副学長の役割は、其らの感傷を捨て去らなければならない程、大変重要・峻烈な職責で、これまで以上に一生懸命仕事に取り組み、全うしていくつもりです。

現在本学が置かれている状況は必ずしも安寧ではありません。

せん。若者の恒常的減少、情報系学部への受験者移動傾向、定員未達による授業料収入の減少などにより、経営的には厳しい状況が続いており、収支改善は構造的に難しい状況です。さらに大学病院・クリニックとも赤字を出し続けており、大学運営は安心できる状況ではありません。

着任の第一義的目的地は現在経営的に厳しい状況に置かれたつつある大学病院およびクリニックの収支改善です。これから2年間で現在赤字の半分程度は改善したいと考えております。職員皆様の心持ちと仕事の能率化と患者数の増加などにより、実現可能と考えております。これまでは余りにも、誰もが収支に関して鷹揚であったと言わざるをえません。4年後には北広島Fビレッジに病院を含めて大学全体が移転するという大プロジェクトが待っております。赤字体質解消はもう待たないの時期になっております。北広島Fビレッジに移転する準備と、あいの里に残られる医療従事者と移動する人達へのサポートおよび、それに伴って患者さんや、住民の皆様にかかる迷惑を出来るだけ少なくするように、医療職員・事務職員一同が一体となり、地域の医療活動や広報活動に注力しなければならないと考えております。

今こそ北海道医療大学病院・クリニック運営の新たな1ページを開く為、病院長・歯科クリニック長共々、職員の皆様と協力して、この難局を乗り切って行くようではありませんか。

CONTENTS

巻頭言：山下徹郎副学長	1
2024年度入試結果報告	2
国家試験結果報告	3
就職結果報告	4
新任教員・昇任教員等紹介・災害ボランティア派遣報告	5
創立50周年記念特別企画 第3弾 医療大のあゆみ	6
創立50周年記念講演会 (8/31) 開催報告	10
イベント開催報告	11
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	